

〈主な事業活動〉

■講演会・講習会等の実施

- ・現場技術の伝承プロジェクト事業
- ・地質調査技術講習会
- ・経営講演会



■全地連運営資格に関する事業

- (地質調査技士、地質情報管理士など)
- ・検定試験の実施
- ・登録更新講習会の開催

■技術資料の提供

- ・機関誌『技術ニュース』の発行
- ・技術マニュアル、教育用テキスト
- ・その他地質に関する出版物



■発注機関との意見交換会の開催

- ・関東地方整備局との意見交換会

■防災意識の高揚と防災知識の普及・向上をサポート

- (防災行事への参加)
- ・そなエリア東京「防災イベント」開催
- ・東京都「防災展」出展 (防災展示)
- ・「総合防災訓練」出展 (防災展示)

■会員に向けた啓発活動

- ・倫理ポスターの作成・配布
- ・会員へのコンプライアンス徹底・指導



■災害発生時緊急支援活動

- ・関東ジオフォース (防災協定) 支援活動

■レクリエーション (福利厚生)

- ・野球大会



協会 60年のあゆみ

1956年	日本地質調査業協会(当協会の前身)設立 (10月)	を設立	1987年	神奈川県・静岡県に支部を設立
1963年	全国地質調査業協会連合会 (以下、全地連) を設立 (8月)	1998年	協会ホームページを開設 (3月)	全地連技術フォーラム (東京) 開催 (9月)
	臨時総会で関東地質調査業協会に改名 (10月)	2002年	長野県支部設立 (4月)	
1964年	第1回地質調査技術講習会開催 (11月)	2005年	栃木県支部設立 (10月)	
1966年	第1回地質調査技士資格検定試験開催 (9月)	2013年	関東協会創立50周年 記念式典 (11月)	
1984年	第1回地質調査技士登録更新講習会開催 (1-2月)	2014年	全地連「技術フォーラム2013」長野開催 (9月)	
1985年	茨城県・埼玉県・千葉県・東京都に支部	2014年	一般社団法人関東地質調査業協会を設立 (11月)	
		2015年	創立60周年を迎える (11月)	

会員企業

〈東京都〉アースプライム、アサノ大成基礎エンジニアリング、応用地質、川崎地質、関東地質、基礎地盤コンサルタンツ、キタック 東京支店、京北地盤コンサルタント、建設技術研究所、建設地盤、興亜開発、国際航業、国土防災技術、サンエー基礎調査、サンコーコンサルタント、J X 日鉱日石探開、ジオテック、ジオ・フロント、地盤環境エンジニアリング、地盤試験所、地盤調査事務所、住鉱資源開発、セントラル技研、セントラルソイル、総合地質調査、ダイエーコンサルタント、ダイヤコンサルタント、大和探査技術、地球科学総合研究所、地圏総合コンサルタント、地質計測、中央開発、東京ソイルリサーチ、トーコー地質、東さく技工、土質基礎コンサルタント、日鉄鉱山コンサルタント、日特建設、日本工営、日本物理探査、パスコ、富士ボーリング、不二ボーリング工業、三菱マテリアルテクノ、明治コンサルタント 東京支店
 〈神奈川県〉アジア航測、エヌケー新土木研究所、神奈川地質、建設技術コンサルタント、地盤コンサルタント、ソイル機工、ツルミ技術、土質基礎研究所、中村ボーリング、北海ボーリング、横浜ソイルリサーチ、横浜テクノス

関東地質調査業協会 創立60周年

ジオ・ドクターとして社会に貢献



一般社団法人関東地質調査業協会会長 五十嵐 勝氏に聞く

一般社団法人関東地質調査業協会は創立60周年を迎えた。1956年に前身となる日本地質協会としてスタートを切つて以来、人の命を守ることを最優先に地盤地質の専門家「ジオ・ドクター」として広く社会に貢献してきた。11月10日に東京都千代田区の東京ガーデンパレスで60周年を記念して式典が開かれる。そこで60年の歩みと業界を取り巻く環境、さらに今後の方向性について五十嵐勝会長に話を聞くとともに事業活動を紹介する。

1956年に前身となる日本地質調査業協会として会員企業10社でスタートしてから、ことしで60周年を迎えました。1963年に全国組織となる全国地質調査業協会連合会が設立されたのを機会に地域に根付く団体として関東地質調査業協会に名称を変更しました。

以降、会員企業も10年で39社、40年で158社と順調に伸び続けましたが、公共事業の削減や静岡県が中部に移行されたことによつて、現在では87社となっています。この10年間については、前半5、6年は公共投資に対して風当たりが強く、会員会社にとっては苦難な時期となりました。しかし、東日本大震災を契機に火山や大雨などによる災害が日常的に起こっていることなどが追い風となって社会的にも公共投資の重要性が認識され始めています。

災害対策はソフトとハードの両輪で、今までは業界は災害に対してハード面を重視してきましたが、東日本大震災を境にソフト面、いわゆる「逃げる(避難)」や「防災教育」についても考える必要があるという流れになってきています。自然現象は想像をはるかに超えてやってくる場合があるので、ハード

面だけでは人命は救えません。そのために、日ごろから防災について学び、「逃げる(この大切さ)」を知ってもらうことは重要です。そこで私たちは、東京都主催の「防災展」などで、一般の方たち向けに地盤情報や液状化の発生メカニズムと対策について知ってもらう機会を設けています。また、ハード面については、国土強靱化を進める上でも土木と理学の両輪で業を行っていきたくと考えています。東日本大震災を考へても地盤は少しずつ強さを増し粘り強くなつてきています。日本の国土は脆弱であるという認識も高まってきています。私たちは災害があるたびに地盤工学や応用地質学会とともに現地に出張調査を行ってきましたが、こういった横との連携も含めて小さな一歩、そして大きな一歩へと歩みを進めていきたいと考えています。

地道に歩み太い輪立ちつくる

大学の人文学・工学系にも女性の入学者数が増えていますが、女性を含めた若い人たちが働きたいと感じる環境にしなければいけません。週休2日制や産休・育休制度の充実、子どもの病気などによる突発的な休暇の取得など生活面においても応援していただける仕組み作りも必要です。そういったことが整備されれば担い手が確保され人材を育成し、いずれ技術を次代に伝承することにつながると思えます。私たちはその一環として『地質調査マニュアル』を発行するとともに『地盤調査の実務』を改訂しました。また、『技術』を不定期に発行し東京都内の工業高校などに配布しています。

このよつな地道な努力をしつづけても太い輪立ちをつくり前に進んで行ければいいと思います。当協会は昨年11月に一般社団法人化し、より公共性・公益性を求められています。災害も多発する中、人の命を守ることを最優先に地盤・地質の専門家「ジオ・ドクター」として広く社会に貢献していきたくと考えています。

〈千葉県〉千葉エンジニアリング、協和地下開発
 〈茨城県〉常磐地下工業、中央地盤コンサルタント、土浦ジステック、中川理水建設
 〈栃木県〉アーステック、中央土木工学研究所、日本測地、パスキン工業、フジタ地質、芙蓉地質
 〈埼玉県〉アクアテラス、アースリサーチ、協和地質コンサルタント、光洋土質調査、埼玉地質、サンセイ、地研コンサルタント、東建ジオテック、東邦地水 関東支社、日さく、服部地質調査
 〈群馬県〉田中整泉重工
 〈長野県〉サクセン、総合地質コンサルタント、日本総合建設
 〈山梨県〉新日本エンジニアリング、萩原ボーリング
 〈静岡県〉建設基礎調査設計事務所
 〈賛助〉アドメディア、応用計測サービス